

## 都市河川の汽水域で確認されたニホンイシガメ

小賀野大一

290-0151 千葉県市原市瀬又962-40 千葉県野生生物研究会

Japanese pond turtle *Mauremys japonica* confirmed in brackish water area of urban river.

By Daiichi OGANO

*Chiba Wildlife Research Society, 962-40 Semata, Ichihara-shi, Chiba 209-0151, Japan.*

2019年6月19日、千葉市を流れる花見川下流域でニホンイシガメ*Mauremys japonica*(以下イシガメ)を確認した(図1)。イシガメは、サイズや背甲の摩耗状態から判断しておそらくは雌の成体と思われた。イシガメを確認した花見川はもともと、現在の花見川区犢橋町などを水源として東京湾に注ぐ小さな川だったが、江戸時代以降に印旛沼の洪水対策と干拓を目的として印旛沼へと注ぐ水系と花見川とを結ぶ疏水工事が繰り返された。戦後になり新たな設計で放水路が起工されて現在の印旛沼の放水路としての機能を持った河川が完成した。



図1. 花見川下流の汽水域で確認されたニホンイシガメ

イシガメを確認した場所は、潮止用の堰(図2)がある花見川区汐留橋から河口側に800mほど下った右岸側に近い地点で、木杭やコンクリート護岸には牡蠣が付着する汽水域であった。この付近には釣りをする人も多く、ボラ、マハゼ、スズキなどの汽水域に生息する魚などが釣果として知られている。イシガメを確認した際に、同時に観察したカメ類としてミシシッピアカミミガメ*Trachemys scripta elegans*が14個体、クサガメ*Mauremys reevesii*が2個体であった。これまでの目視や罟掛け調査でもこの2種は確認されていたが、イシガメは今回が初めての確認であった。

上流側の印旛沼水系ではイシガメが僅かではあるが確認されていることから、大雨で下流域に流されてきた可能性や最近になってこの付近で遺棄された可能性などが考えられた。イシガメは皮膚が弱く皮膚病にもかかりやすい種であるため、このような汽水域での生息を続けることは極めて困難なことと思われた。



図2. 花見川下流側から見た潮止の堰